

外科の話

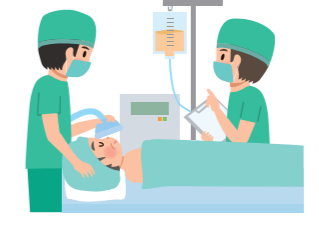
「今月のドクター」
申間市民病院
外科
たかや つかし 剛先生

Q1 全身麻酔が可能になって施行可能となった手術にはどのようなものがありますか？

A1 腹腔鏡下胆嚢摘出術や上腹部の腹壁ヘルニアの手術に対応できるようになりました。



下腹部の腹壁ヘルニアについてもこれまで通り手術することができます。その他、虫垂切除術も腹腔鏡下および開腹下手術で行うことができます。



Q2 外科外来で対応していることは何ですか？

A2 体の表面(皮膚)の腫れ、できものは皮膚科で対応するのが一般的ですが、串間市民病院の皮膚科外来は木曜日のみです。それ以外の曜日では外科外来で可能な範囲は対応しています。
よくあるものとして、粉瘤、陥入爪(巻き爪)があります。いずれも化膿するなど炎症を合併して来院される方もいます。



Q3 最近の外科外来の変化について

A3 再発後の抗がん剤治療、緩和ケア、その他、手術後の再発予防のための抗がん剤治療などの紹介があります。主な紹介元は宮崎大学医学部附属病院、県立宮崎病院、都城市郡医師会病院です。串間市外の医療機関への通院が困難になってきた方で、串間市民病院外科外来での対応を希望される方がいらっしやいましたら、外科外来へご相談ください。

現在の外科手術の状況について

常勤麻酔科医師の退職に伴い、2019年1月より串間市民病院外科での全身麻酔下手術は行うことができなくなっていました。今年の5月からは非常勤で麻酔科医師が勤務しています。これに伴い全身麻酔下の手術が可能になりました。現在は腹腔鏡下胆嚢摘出術などに手術を限定して全身麻酔下手術を行っています。

術後合併症に対し全身麻酔下の再手術を要する可能性がある手術(胃がんや大腸がんの手術)に関しては、外科医師および麻酔科医師が増えるまでは行う予定はありません。

その他、心臓や肺の機能が低下している方、高齢の方に関しては術後管理の観点から、集中治療室を有する医療機関(県立日南病院や都城市郡医師会病院、宮崎大学医学部附属病院など)での手術をお勧めしています。また、可能な限り緊急手術にも対応していますが、職員の不足(外科医師、麻酔科医師、手術室看護師)により対応できないこともあります。



健幸通信

みんなで守ろう！大切ないのち

日本の年間自殺者数は近年減少傾向にはあるものの、依然として年間2万人を超えており、深刻な状況です。
自殺は、その多くが追い込まれた末の死です。
悩みを抱えた人は、「人に悩みを言えない」「どこに相談に行ったらよいかわからない」などの状況に陥ることがあります。
悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のことを「ゲートキーパー」と呼びます。

特別な資格は必要ありません。あなたの大切な人の心のサインを感じたら、ぜひ、「どんげしたと？」の声をかけます。あなたが必要としている人がいます。
悩んでいる人に寄り添い、みんなで大切ないのちを守っていきましょう。

広報くしま
9/10~9/16は
自殺予防週間
みんなで守ろうゲートキーパー

ゲートキーパーってなんぞや？

ゲートキーパーの役割

- 変化に気づく
- 耳を傾けねぎらう
- 支援先につなげる
- 温かく見守る

「みんなでなろう ゲートキーパー」

俺にもできることやな!!

どういえば最近友人モンゴの元気がなかつたよ...

どんげしたと? よかったら話してみらんか?

●相談窓口 地域生活支援センター「ウィング」(ニシムタ前)

●開設時間 午前8時~午後5時の時間帯で365日開設。

☎71-1578
メール: center-wing@aurora.ocn.ne.jp

「もっと元気に！もっと長生き！」意識が変われば、身体も変わる！

いきいきと楽しい人生を送るには、心身ともに健康であることが大切です。今回は、「宇戸・東」のいきいき元気教室を紹介します。

「宇戸・東」は、教室を始めてから2年8カ月が経ちました。男性と女性の参加者の割合がほぼ半々で、年齢も64歳~82歳とバラエティ豊かです。

童謡のリズムに合わせた体操なので、曲に合わせて男性は力強く、女性は優しい歌声が公民館の外にも響いています！

●参加者の皆さんからのコメント
「座りっぱなしの仕事だったので何か脚腰の運動をと思い始めました」
「腰が痛かったのが良くなりました」
「休むとダメですね。続けることで現状維持できています」
「皆と顔をあわせて話をするのが毎週楽しみで、体操だけでなく情報交換の場にもなっています。参加者がもう少し増えると良いなあ」



●問い合わせ先 医療介護課 保険係 ☎72-0333 (内線512)